

学士力発展科目

1. 授業の目的（授業のねらい）

学士力発展科目は「導入科目」、「課題発見科目」で身につけた知識・スキル及び態度・志向性を発展させ、幅広い知識と多様な経験を通して、主体的かつ総合的に学ぶ素地を養うことを目的とする科目群である。以下の系列から構成される。

- (1) 文化・社会系科目 (2) 科学・技術系科目 (3) 生命科学系科目
- (4) 学際・生涯学習系科目 (5) 地域科学系科目 (6) 外国語系科目

2. 到達目標（育成する資質・能力）

宮崎大学では学士課程教育を通じて培う学士力を以下のように捉えている。学士力発展科目では、学部(学科・課程)のディプロマポリシーに応じて指定された科目群を履修し、ここに掲げる複数の資質・能力を育成する。

「人間性・社会性・国際性」（大学の教育理念）

- (1) 倫理観 (2) チームワーク、リーダーシップ (3) 市民としての社会的責任

「生涯学習力」

- (1) 自己管理力

「コミュニケーション能力」

- (1) 自己表現力 (2) 他者理解力

「(批判的・論理的)思考力」

- (1) 論理的思考力 (2) 課題発見、問題解決力

「情報収集能力」

- (1) 言語リテラシー (2) 数量的スキル (3) 情報リテラシー

「知識・理解・技能」

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解 (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
- (3) 専門分野に関する知識・理解・技能(実践力)

3. 授業内容・方法（シラバス）

① 教育目標

学士力発展科目の6つの系列で開講される授業は、教育目標を明確にする。その際、上記学士力のうちどのような能力を育成しようとするのかを明らかにする。

② 授業計画

教育目標を達成するための15回の授業計画を構成する。小テスト、レポートなど、授業時間外の学習を十分に課し、単位の実質化を図る。

③ 教育方法

講義、演習、実習又は2以上の方法を併用し、ディスカッション、ディベート、グループ活動、プレゼンテーションなどを中心とした能動的学修（アクティブラーニング）やメディア活用などの教育方法を積極的に導入する。

④ クラス編成

各授業科目において、適正なクラスサイズの実現に努め、1クラスあたり80名程度とする。なお、生涯スポーツ科目及び外国語系科目においては、1クラスあたり40名を超えないようにする。

4. 成績評価方法

① 評価方法の明示

定期試験、小テスト、レポート、課題、授業への参加度、等を挙げ、その割合（%）を記入する。

② 多様な成績評価方法の導入

ポートフォリオなどの多様な到達度評価の方策を導入する。